

図書館だより

8月



ワシントン日本語学校図書館 (tosho@wils.org) 令和7年 8月号
開館時間 8時50分～16時00分

夏休み、楽しい読書ができましたか

長いようであつという間に終わった夏休みは、ふだんなかなか読めない長編や新しいジャンルの本を読んでみる良い機会でした。時間を気にせず好きなだけ読める時、みなさんはどんな本と出会いましたか。心に残る一冊、忘れられない一冊の本、きっと心の友達を1つ、2つとふやすことができたのではないのでしょうか。前期後半も、本の友だちをたくさんふやしていきましょう。

図書館利用案内

人気シリーズ利用案内

「発明・実験対決」「サバイバル」
「タイムワープ」「最強王図鑑」
「どっちが強い!」「漫画」については、生徒それぞれ1冊まで借りることができます。放課後、対象の本が棚に残っている場合、保護者の方にも貸出できます。

- ・図書館ではオンライン予約(生徒1人1冊)の他に、借りたい本が貸出中で見つからない時は、予約ができます。カウンターにてお申し込みください。
- ・貸出期間は2週間です。たくさんの方がお待ちの本もありますので期間内の返却にご協力をお願いいたします。
- ・汚したり壊したり、雨や飲み物等で濡らさないよう、大切に扱いましょう。汚損・破損・水漏れの程度によっては、弁償していただく場合がありますのでご注意ください。
- ・図書館で借りた本などを誤って破損した場合は、セロテープなどで修理せず、そのままの状態でお持ちください。

6月人気ランキング

児童書シリーズ

- 1 5分後に意外な結末 / 桃戸ハル
 - 2 かいけつゾロリ / 原ゆたか
 - 3 ドッグマン / デイヴ・ピルキ
- おしりたんてい / トロル
おしりダンディ ザ・ヤング

絵本シリーズ

- 1 ノラネコぐんだん / エ藤ノリコ
- 2 いちにちシリーズ / ふくべあきひろ
- 3 パンどろぼう / 柴田ケイコ

作家

- 1 東野圭吾さん
 - 2 辻村深月さん
 - 3 汐見夏衛さん
- 知念実希人さん

6月の貸出状況

貸出利用者

生徒	595人
保護者	283人

貸出冊数 3,021冊

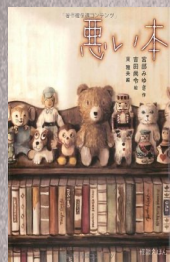


夏休み前に借りた本は
忘れずに返却してください。



怖い話

みなさんは、こわい話は好きですか？ちょっとドキドキするけれど、ついつい読んでしまう… 幽霊や怪談、ふしぎな出来事が登場する、暑さを吹き飛ばすような「こわい話」をあつめました。
「夜に読んだら眠れなくなっちゃうかも…」 「友だちと一緒に読んで、盛り上がりたい！」 そんなあなたにぴったりの一冊が、きっと見つかります。ぜひ、こわい話の世界をのぞいてみてください。



『悪い本』宮部みゆき（岩崎書店）

この本は「わるいきもち」をかたりかけてくるふしぎな本。やさしいけれど、どこかこわい「ぼく」が、あなたの心にそっとはなしかけます。「わるいきもち」って、どんなきもち？ほんとうにこわいのは、どこにあるの？よんだあとも、ドキドキがのこる一さつ。でも、ページをめくるときは きをつけて……。 (対象年齢：5歳～)

『ざしきわらし えほん遠野物語』京極夏彦（汐文社）



古くからある豊かな家に伝わる、神とも妖怪ともいえない存在。12才くらいの男の子だったり、女の子だったりするという。この人たちがいなくなると家が滅びる。孫左衛門の家にいた2人の女の子の神が、出て行った後、家に不思議なことが起こり、一家は… (対象学年：小学校低学年～)

『ちょっとこわいメモ』北野勇作（福音館書店）



ぼくは、こばやしゆうと。ゆうと、というのは、ゆうきのあるひと、といういみなんだけど、はっきりいってぼくはこわがりなんだ。これは、そんなぼくが見た、ちょっとこわいもののメモ。よかったら読んでみてくださいかな。だいじょうぶ、ちょっと「こわい」、だけだから。ぬいぐるみのクマはガラスの目でぼくを見る。プールそうじのときにひろった緑色の円盤、そして暗い路地の奥には……。こわくてふしぎでおもしろい4つのお話。 (対象学年：小学校中学年～)

『あやしおそろし、天獄園』廣嶋玲子（偕成社）



「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」シリーズに登場した「怪童」が経営する遊園地「天獄園」を舞台にしたスピンオフ作品。怪童がくばる遊園地へのお試しチケットに招かれた6人の恐怖体験を描く！ 観覧車、ジェットコースター、メリーゴーランド、天獄園のアトラクションは、一見どここの遊園地でもみかけるオーソドックスなもののばかり。だが、銭天堂の紅子も「足をふみ入れないのがいちばん」と言っているとおり、そのアトラクションには、おそろしい結末がまっている。天獄園には、銭天堂シリーズで紅子の敵役となった「よどみ」も登場。怪童からスウィーツショップをまかされたよどみは、たたりめ堂時代のノウハウを生かし、悪意に満ちたお菓子をつくり販売する。 (対象学年：小学校中学年～)

『近畿地方のある場所について』背筋（KADOKAWA）



フリーライターである「私」は、オカルト雑誌の新人編集者・小沢からの協力依頼を受け、近畿地方のある場所にまつわる怪異譚の収集・執筆に関わることになった。当初は無関係に見えたトンネル、ダム、廃墟といった心霊スポットで語られる奇妙な出来事が、取材を進めるうちに不気味な共通点を見せ始める。雑誌記事、ネット掲示板への書き込み、インタビュー記録など、様々な形式の情報が断片的に提示されていく。やがて小沢は謎の失踪を遂げ、「私」は彼が集めた情報を元に、読者へ情報提供を呼びかける形で物語を構成するが、そこには「私」自身の隠された意図も垣間見えるのであった。近畿地方の山間部に潜む、「まっしろさん」と呼ばれる存在や、「赤い服の女」などの怪異が、次第に一つの大きな恐怖の輪郭を描き出していく。

『たべてあげる』ふくべあきひろ（教育画劇）



りょうたくんは、ピーマンが大嫌い。「だれかかわりに食べてくれないかなー」。すると、コップの後ろから小さいりょうたくんが出てきて、ピーマンを食べてくれました。りょうたくんは大喜び。次の日も、嫌いなニンジンも食べてもらったりりょうたくん。イヤなものをどんどん食べてもらっているうちに……“大変”なことになっちゃうのです！面白くて、コワ～くて、クセになる、新型食育エンターテインメント絵本。 (対象学年：5歳～)



『妖怪百物語』水木しげる（小学館）

江戸時代から語り継がれた魚、小人、一つ目などの著名妖怪から、人間鮫、首ぬけ男、ローレライ、夜行遊女など、知られざるユニークな妖怪がワールドワイドに大集合。日本の妖怪100の物語です。絵もすべて水木氏が書き下ろした、妖怪本の「古典」。 (対象学年：小学校中学年～)

『1話3分 こわい家、あります。』藍沢羽衣（小学館）



幽霊が出る、原因不明の音がする、あかずの間があるなど、いくつもの物件だけを扱う「くらやみ不動産」。そこで店番をする少年店主くらやみくんとお客たちが遭遇するこわいお話、全24編。くらやみくんがいつも持っている黒革の表紙の本、それがブラックリスト。一軒家、マンション、お店、学校など、あらゆる心霊スポットはこの本を見れば一目瞭然。背筋がゾクゾクする、恐怖体験にご案内します。1話3分で読めるショートショート怪談集です。 (対象学年：小学校中学年～)

『図書室の階段』緑川聖司（ポプラ社）



中学1年生の大樹は、いじめられていたクラスメイトをかばったことが原因で、自分がいじめの対象になってしまった。ある日、図書室で見つけた「悪魔の本」を読み始めると、彼の周囲でおかしなことが起こり始める。彼をいじめたクラスメイトが本に書かれているのと同じような事故にあって、幼馴染の陽奈にも異変が。見知らぬ青年に「その本はとても危険な本だから僕に渡して」と言われるが断る。危険を感じた大樹は、神社の神主さんにお祓いをしてもらおうとしたが、すでに彼は「悪魔の本」と契約を交わしており、逃げられない運命に。図書室で出会う女の子、幼馴染、謎の青年、神主さんにもそれぞれ秘密がありそうで、真実を言っているのは一体誰なのか、大樹は呪われた本から逃れられるのか!? (対象学年：小学校高学年～)

『黒い家』貴志祐介（角川ホラー文庫）



若槻慎二は、生命保険会社の京都支社で保険金の支払い査定に忙殺されていた。ある日、顧客の家に呼び出され、期せずして子供の首吊り死体の第一発見者になってしまう。ほどなく死亡保険金が請求されるが、顧客の不審な態度から他殺を確信していた若槻は、独自調査に乗り出す。信じられない悪夢が待ち受けていることも知らずに…。恐怖の連続、桁外れのサスペンス。読者を未だ曾てない戦慄の境地へと導く衝撃のノンストップ長編。第4回日本ホラー小説大賞受賞作。